

令和7年度試験問題  
前 期 日 程  
学校教育教員養成課程  
教科教育専攻

専 修 名	科 目 等	ペ ー ジ
社会科教育専修	小論文	P. 1～P. 3

注 意

1. 問題冊子及び解答用紙は指示のあるまで開かないこと。
2. すべての解答用紙の※印のついた箇所に受験番号を記入すること。(合計点欄に記入してはいけない。)
3. ページ数に間違いがないかよく調べること。
4. 下書用紙を利用することは差しつかえないが、答えはすべて解答用紙に記入すること。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰ること。

まず、下記の「奈良教育大学ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」を読んでください。

\*

奈良教育大学は、「奈良教育大学の3つの柱」として、「人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究」「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」「教員養成と教員研修の融合」を掲げています。とりわけ、本学は附属学校園を含めてユネスコスクールに認定されており、環境、文化、平和、人権等、「持続可能な開発のための教育」(ESD)に関わるさまざまな取組を展開し、教育の面からSDGsの達成を目指しています。

ESDの基盤となる人権は、1948年の世界人権宣言により国際連合においてその基本的な理念が位置づけられ、世界の誰もが有する「普遍性」とともに、ジェンダー、人種、民族、宗教、障がい、言語・文化などに関わる「多様性」を大切にしています。「多様性」は、このように、個々人の尊厳と人権の保障を踏まえた、持続可能な社会の基本的な理念を示すものとなっています。それは、それぞれの差異を踏まえつつ、平等・公平・公正な対応を求める理念でもあります。

「多様性」については、理念を理解することに留まらず、組織を構成するすべての人々によって、それぞれの差異や異なる価値観を認めるための「行動」が伴わなくてはなりません。また、教育大学においては、それを実現していくための「教育」も重要です。そこで、奈良教育大学では、「多様性」の理解とその上に立つ行動及びそのための教育を推進することとし、それを奈良教育大学における「ダイバーシティの推進」と定義します。

そして、奈良教育大学は、そこに関わる多様な人々を誰一人取り残すことなく包み込み、異なる経験・能力・考え方などの結集や融合によって、新たな知や価値を創造していく組織であらねばなりません。その包摂性を、奈良教育大学における「インクルージョン」と定義します。

以上により、奈良教育大学は、ダイバーシティ・インクルージョンを推進

し、大学構成員としての学生、教職員、附属学校園における幼児・児童・生徒及びその保護者全員が、安心して集い、学び、研究し、働き、参画できる場とします。また、その推進に貢献できる教員の養成・研修を行います。そこで、ここに「奈良教育大学 ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」を掲げ、以下に取り組むこととします。

1. いかなるハラスメント・人権侵害も容認しません。すべての大学構成員を誰一人取り残すことなく包み込み、互いにそれぞれの多様性をありのままに認め合い、尊重し合う大学であることを共通の価値とします。
2. その価値の共有のため、意識の啓発に努め、相互の対話を大切にします。
3. 多様な背景をもつ大学構成員が、奈良教育大学で学び、研究し、働き、参画する上で必要な環境の改善に努めます。
4. 「ダイバーシティ・インクルージョン推進」に関する知見と洞察を、「奈良教育大学の3つの柱」の実現と、教員の養成・研修に関する内容・方法の樹立に生かし、ともに実践していきます。

2021年（令和3年）4月

奈良教育大学

\*

これは奈良教育大学の宣言ですが、社会において誰もがこうした考え方をもち行動するには、さまざまな困難もあることでしょう。そこで下記の問いに答えてください。

問1 地理的・歴史的にみてどのような困難性がなぜ存在すると考えられるか、あなたがこれまでに学んできた内容をふまえて、それぞれ300字以内で例示してください。

〔配点各75点〕

1-1： 地理的にみた困難性の例

1-2： 歴史的にみた困難性の例

問2 上に記した困難性を、あなたは学校教育を通じてどのように克服したいか、具体的に考え、それぞれ300字以内で記してください。

〔配点各75点〕

2-1： 地理的にみた困難性の例の克服策

2-2： 歴史的にみた困難性の例の克服策